



トップニュース:「ばすでんしゃねっとふくい」発進!

福井県が福井県バス協会に委託して、県内のすべての公共交通時刻表を網羅したホームページを作成、このたびアップしました。正式には4月1日からの運用となります。施設アクセス情報も入り、全国的に見ても豪華版の部類に入るホームページになったと思います。その名も「ばすでんしゃねっとふくい」。作成にはROBAの会も協力しました。「ふくいのりのりマップ」に続き、またひとつ福井に公共交通利用促進の情報提供が始まります。皆様、是非ご利用ください。(文:清水)

福井県バス協会ホームページ「ばすでんしゃねっとふくい」

<http://www3.ocn.ne.jp/~fba/>

活動報告

- 3月 2日 都市再生モデル部会
- 3月 4日 第18回まちづくり懇談会
- 3月 6日 ROBA ワークショップ
in 美山みらくる亭
- 3月 9日 都市再生モデル部会
- 3月12日 都市再生モデル調査報告書仮納品
- 3月13日 住みたくなるまちづくり
ワークショップ参加
- 3月16日 3月作業部会・都市再生モデル部会
- 3月22日 都市再生第2回アドバイザー会議
- 3月26日 3月例会・都市再生モデル部会

今後の予定

- 3月27日(土) 丹南自治研究会との意見交換会
- 3月28日(日) NPO ボランティアフォーラム参加
- 3月30日(火) 都市再生モデル部会
- 4月 6日(火) 都市再生モデル部会
- 4月 8日(木) 第19回まちづくり懇談会
- 4月13日(火) 4月作業部会・都市再生モデル部会
- 4月18日(日) 北陸3県交通まちづくりNPO
交流会 in 高岡
- 4月20日(火) 都市再生モデル部会
- 4月23日(金) 4月例会・都市再生モデル部会
- 4月27日(火) 都市再生モデル部会
- 4月30日(金) 都市再生モデル調査報告書納品
総会の予定・5月16日(日)
本田 豊氏 講演予定/詳細は次号で

ゆうじんの部屋 書籍紹介

都市をつくった巨匠たち - シティプランナーの横顔 -
監修 新谷洋二/越澤明 編集 都市みらい推進機構
出版 ぎょうせい 定価 3,333円+税
ISBN4-324-07095-4

都市計画が専門の私でも、都市計画家と建築家のどちらを多く知っているかと問われれば、建築家と答えざるを得ないほど、個人の業績として語られる都市計画は少ない。また、道路、公園、下水道等の配置や建物の制限をいくら完璧に設計したところで、そこに住む人、経済情勢等に合っていなければいい町はできない。

この本にでてくる内外の都市計画家は、デザイナーではなく、その時代の思想家であったり法律家であったり、平易な言葉で言うと経営センスのある人であろう。それは今の都市でも同じであるが、各時代に活躍した都市計画家たちが、その時代の要請にどう応えたか、今一度問い直して、今の時代をみつめ直してみよう。

この本は、それを通じた歴史法則や空間設計のあり方の教科書ではない。そのため、少し退屈であるが、過去の事例から自らの都市計画論を構築する意欲のある人にはおすすめである。

(文・美濃部)

活動報告書の構成について説明

えちぜん鉄道存続のパワーをまちづくりに！
「協働による公共交通とまちづくりのすすめ」

1. 福井の公共交通の現状と課題

えちぜん鉄道の存続運動を含めたROBAの活動の概要と成果について、これまで取り組んできた活動を通して得られた事項と課題のまとめ

2. 公共交通を活かしたまちづくりの提案

活動を通じて問いかけてきた公共交通とまちづくりの考え方について、「つないで生きる！公共交通とまちづくり」というイメージ図と事例を交えた解説

3. 公共交通とまちづくりを展開するための仕組みづくり

協働のまちづくりのしくみとシナリオを作っていく上で、NPOとしての果たすべき役割と、その波及効果と展開の方向

4. 協働による公共交通とまちづくりの実践

シナリオに基づいた実践から得られた具体的な計画について、地域住民とのコラボによる地域のまちづくり計画、行政や事業者とのコラボによる公共交通計画、およびROBAの独自の提案について、今後とも引き続き積み上げながら活動していくためのベースとして作成



意見交換

財源の問題

- ・財源確保および税負担の住民合意について、もっとも重要と考えているため、どのように展開していけばいいか提案して欲しい。
- ・赤字が出た分を補助する後ろ向きの欠損補助ではなく前向きな提案ができないか。
(ROBA:利用者が増えればCO₂は少なくなるが、その効果が出た分補助金が多くなる制度がほしい。)
- ・公共交通がなくなるとみんなマイカーになり、年寄りの事故が増え、その医療費がかさんでくる。その分を税金投入してもいい!といった事になってほしいと思っている。

公共交通の存在の浸透

- ・車しか使わない人にどのように公共交通を使ってもらうかが重要。(ROBA:身近な所から転換のきっかけを拾い集めて、車からの転換促進策を検討したい。)
- ・これを読んで、明日からバスや電車に乗ろうという気になってもらえるようにしてほしい。
- ・最近の高校生は学校の送り迎えや受験にも送り迎えをしている。子供のために良くないのではないかと感じる。(ROBA:とくに、高校生の公共交通機関の利用を促進するよう、HPでアクセス時刻表を作成中 送迎オタクになっている親の子離れを促す必要がある)

「車との共存」

- ・福井は「車との共存」がふさわしいのではないかと。(富山県ビジョンでは「車からのシフト」) 車もあるけど公共交通もあるといった仕組みづくりが必要で、福井は合理的に公共交通を利用しており、冬の乗客は増えるので、おしつけにならない程度で住民に投げかけてはどうか。

また、最後に、ROBAのアクションプログラムがあるといい、という意見をいただきました。この会議を引き続き「公共交通協働施策交流会」にしたいという提案をして終わりました。(林)

<アドバイザー会議の様子>



全体的風景



アドバイザーの皆さん



アドバイザーの皆さん

車椅子利用者との懇談会

日 時: 3月2日(火)PM7:00 ~ 21:00

場 所: 県民活動センター会議室

移動が不自由な人の移動支援活動を行っている「ふくい愛の実行運動の会」の車椅子利用者やその介助をされている方8名と意見交換を行いました。

ノンステップやリフト付のバスが少なだけでなく、そういったバスにバス停が対応できていないといったハードの問題のほか、一部の運転手や駅員の対応の冷たさといったソフトの問題も大きいという経験談を指摘いただきました。

また参加者のアメリカでの生活経験から、「ミズリーではバスが便利で、不自由な人も自分で移動の計画を立てられ、健常者と同様に自由にバスに乗ることができた。健常者と一緒に生活(移動)できることから、自分達も同じ市民なんだと実感できた。専用の福祉サービスより、健常者と一緒に生活できるようにすることが不自由者の自立意識を高めることになる」というお話には説得力がありました。

「健常者にも魅力のない公共交通では移動不自由者にとってはなおさら利用しづらい」「ショッピングセンターはバリアフリーだがキャベツ1つをわざわざSCに買いに行くより、地域の中で生活できる方が望ましい」など、まちづくりに対しても率直なご意見をたくさんいただき中身の濃い意見交換ができました。

(佐藤)

第18回まちづくり懇談会の報告

日時：3月4日(木) 19:00~21:15

場所：駅前商店街会議室(五十嵐ビル6F)

参加者：ROBA/高橋、清水、川口、玉井、坂川、堤端、門田、
内田、

まちなかNPO/永井、大森、村北、伊井、古木

議題：

まちづくり進歩ジウム(ROBAの会主催)での
基調講演ビデオの上映

『都市におけるこれからの公共交通とまちづくり』

by 横浜国立大学 助教授 中村文彦

H16年11月24日の講演のケーブルTV作成のビデオを上映いたしました。

・何度聞いても、納得することばかりで新鮮さがありました。
まちなかNPOの意見でも、再度聞き直すと良いことをいっているなあ、と感ずるといった意見もありました。

・上映後、都心居住の問題、都心のまちづくりと公共交通の問題、コンパクトシティとまちづくりの具体的な進め方について意見交換をいたしました。

次回開催 日時：4月8日(木) 19:00~21:00

場所：駅前商店街会議室(同上)

議題：2月20日に開催の中心市街地活性化シンポジウムのビデオの上映及び意見交換

『商人による都心再生!』-その気概と手法を学ぶ-

主催：福井駅前五商店街連合会

福井まちなかNPO

まちづくり福井(株)

福井商工会議所

(文・内田)

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「春休みで通勤バスはガラガラガラガラ」

清水(副編集長)

「存廃問題に神出鬼没 旅から旅へ」

川口(副編集長)

「会社訪問に東奔西走(答本 正装?)」

内田(発行責任者)

「ROBAがスタートして早3年!まだまだ」

お元気で!

谷村さんは広島へ 五十嵐さんは福岡へ

事務局

ふくい路面電車とまちづくりの会

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL:0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>